No. 149

ティーブレイク

Tea Break

Tenore

会員　若林　　擴

テナー，テノールは旋律を保持するという意味のラテン語 tenere である。カウンター・テナーほど高くはないが，最高音域の男声及びその音域を有する歌い手をいう。4 声体和声，混声 4 部合唱においては，土台となるバス・パートに対し主に旋律を担当するパートでソプラノ，アルト，テノール，バスの下から 2 番目に低い声部で，バスより高くソプラノ及びアルトの下にくる。

テノールは概ね C3 から C5 くらいの音域である。ピアノの鍵盤のオクターブ 3CDEFGABC，4CDEFGABC，5CDEFGABC のボイスレンジの声である。カウンター・テナーのようにファルセットは使用しない。透明感のある明るい声が特徴である。

オペラ歌手の場合，テノールの声質を上から，leggero（レッジェーロ）軽快な，lirico（リリコ）叙情的な，lirico spinto（リリコ・スピント）叙情的で情熱的な，drammatico（ドラマティコ）劇的な，と分類し，上の方の声質は「軽い，柔らかい，若々しい」印象を，下の方はより「重い，たくましい」印象を与える。

Tenore・robust（テノール・ロバスト）という力強いテノールの特別な言い方もある。歌手の声質が加齢とともに変化していくと，殆どが「軽いから重い」の方向となる。

世界三大テナーの一人，イタリア人のルチアーノ・パヴァロッティは，私より一つ年下の 1935 年生まれ，キング オブ ハイ C と言われ，技術的に困難な高音を軽々と繰り出し，豊麗な美声，申し分の無い声量，明晰な発音，輝かしい高音，と賞賛されたが，2007 年にすい臓がんで死亡した。

ルチアーノ・パヴァロッティについては，ニッカ・ウヰスキーのテレビコマーシャルに出演するために，ジェシー・ノーマンの身代わりで来日した黒人のソプラノ歌手，キャスリン・バトルが，白く薄いロングドレスをたなびかせて，ニッカ・ウヰスキーのテレビコマーシャルの中で歌って，幸運にも日本で大ブレークした。日本公演の合間に，ニューオータニのテニスコートで私達とテニスを楽しんだ後，イタリアン・レストラン「グラナータ」に食事に招いた際に，最後のドルチェを選択するとき，大好物のティラミスを選ぶのに，太ると契約違反になるからどうしよう，と散々に迷い，これからニューヨークに帰って，ジャネット・ジャクソンとのテレビ録画が終わった後で，仲良しのルチアーノ・パヴァロッティが私の新居の引越し祝いに，パスタを茹でに来てくれるのよ，とうれしそうに語っていたのが思い出される。

食後，突然，マネージメントした梶本音楽事務所の社長に教わって，日本公演のアンコールで歌っていた日本語の「浜千鳥」を，声を殺したメッゾ・ソプラノで歌い出し，レストランの隅から隅までが感動でシーンと成ったことが忘れられない。

スペイン人のプラシド・ドミンゴは 1941 年生まれで，静脈血栓塞栓症を克服し，現在も活躍している。テノールとバリトンの両方をこなす。

同じくスペイン人のホセ・カレーラスは 1946 年生まれ，1987 年白血病を患ったが近親者に適合する骨髄提供者が居なかったため，アメリカで自身の骨髄の自己移植が行なわれ，奇跡的に生還，復活した。

三大テナーは，1990 年 FIFA ワールドカップ・イタリア大会の前夜祭として，古代ローマの建造物であるカラカラ浴場での伝説的なコンサートで世界的に有名になった。今はカナダで引退している香港の弁護士エラ・チャンがこのコンサートを聴いたと言っていた。

かねてより，日本伝統音楽の発声法とは全く異なる，オペラを一度本格的にボイストレーニングを受けて唄って見たいと思っていた。

3 年前より，縁あってオペラ二期会の中堅テナー歌手の先生を紹介されて師事することになった。精進の甲斐あって，去年は初舞台で，プッチーニのトーランドット「NESSON DORMA 誰も寝てはならぬ」とディ・カプアのカンツオーネ「'O sole mio！オーソレミオ」を，辛うじてパヴァロッティーのキーで唄うことが出来るようになった。

今年の舞台では，同じくプッチーニのトスカの第 3 幕「E LUCEVAN LE STELLE 星は光りぬ」とヴェルディの椿姫の第 1 幕「BRINDISI 乾杯の唄」をアルフレッドのソロとビオレッタとの合唱のパートを唄う積り。

来年のオペラ歌曲シニア・コンクールには，ルッジェーロ・レオン・カッヴァーロの道化師 Pagliacci「Vesti la giubba 衣装を着けろ」をソロで唄わせて貰う予定で，今から，エンリコ・カルーソーとデル・モナコとルチアーノ・パヴァロッティの CD を聞いて，コンクールの為に先生の 1 年間の特別レッスンに備えている。

歌手の声質が加齢とともに変化していくと，殆どが「軽いから重い」の方向となる前に，テノールを豊麗な美声のハイ C で唄い続けたいものだ。